

8月20日（木）に竹田総合庁舎1階大会議室にて、竹田教育事務所管内第2回地域授業改善協議会を行いました。研究主任を対象に、「UDの視点を踏まえた授業づくり」についての講義や協議を行うことで、管内小中学校のミドルリーダーを中心とした組織的な授業改善を図りました。

<研修内容>

【講義】

「UDの視点を踏まえて
すべての児童生徒が分かる授業を目指して」

【協議】

「習熟の程度に応じた指導の現状と
解決に向けた取り組みについて」

【説明】

「授業改善に向けた多様な背景を持つ
児童生徒への生徒指導について」

特別支援教育コーディネーター
工藤 雅道 先生



「学級全体を『森』と見たとき、
個を『木』として見てはいませんか。」

①子どもの3層モデル

②授業のUD（マクロの視点）
③授業の個別の指導計画（ミクロの視点）
による支援

「すべての児童生徒が自分らしく学ぶことができる通常の学級の授業づくりを、UDと個別の指導計画の両面から考え、ともに歩み、学力向上を目指してみませんか。」

事例検討 「小学校4年生算数・小数のわり算」

（事例の概要）

個別指導では理解できる児童が、時間が経つとわからなくなってしまう。授業内での個別指導の限界と、他の児童への指導に悩んでいる。



考える視点

- ・ 単元構想
- ・ UDの視点
- ・ 個別最適、協働的な学び
- ・ 主任として

①自分だったらどうするか

②グループ協議で、多様な考えに出会い、
研究主任としての考えを深めました。



工藤雅道先生の講評のポイント

- ① 観点・原因分析
- ② UDの視点
- ③ 個別の指導計画の視点
- ④ 全体指導ではどうするか
- ⑤ 個別指導ではどうするか

「重層的な支援構造」について

生徒指導提要の「重層的支援構造」を確認し、講義内容「子どもの3層構造」「UDの視点」と関連づけるとともに、多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導について共通理解を図りました。

受講者の振り返り

○すべての生徒に向けたユニバーサルデザイン（UD）の授業づくり（マクロの視点）と、生徒の「困り」の背景を丁寧に分析する個別支援（ミクロの視点）の両輪の重要性を学びました。安心して意見を出せる学級風土の土台づくりも含め、具体的な授業改善のヒントを得ることができました。

○グループ協議を通じた他校の先生方との情報交換により、自分になかった新しい考え方や具体的な取組事例を知ることができました。今回の学びを自身の学級にとどめず、校内研究や全職員での共通理解に生かし、学校全体でチームとして授業改善に取り組んでいきたいです。